

来週の「売り物」記事はこれ



2013年7月26日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

女性写真家が撮り続けた40年 基地の島 オキナワの現実 朝刊 28日(日)



沖縄在住の女性写真家、石川真生さん(60)＝写真。「理不尽な状況に置かれている沖縄を撮りたい」と写真家を志し、「基地の町 沖縄」をライフワークに作品を発表し続けています。生身の米兵を撮るために黒人バーのホステスになったり、港湾労働者の過酷な現場に迫るため居酒屋を経営したりして、被写体と同じ目線でファインダーをのぞき続けてきました。今年還暦を迎えました。がん闘病などさまざまな試練が襲いかかっていますが、創作意欲はますます高まっているといいます。「日米両政府に翻弄され、オキナワは差別され続けてきた」と語る石川さん。異色写真家の目を通して、復帰後の「オキナワ」を描きます。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待ください。

死ぬまでか 死ぬほどか……

猛暑より熱い「高齢者の性」記事

夕刊特集ワイド 31日(水)



週刊現代が「死ぬほどセックス」とうたい、60代以上のセックス記事を続けざまに特集すれば、同じ月曜日発売の週刊ポストも「死ぬほどSEX」とあおります。聞けば、高齢者のセックス記事を掲載すると売れ行きが好調だそうです。若者が草食化する一方、高齢者が元気なのは喜ぶべきことですが、いったいなぜセックス記事が読まれるのでしょうか。本当にみんな「死ぬまで」したいのでしょうか等々を考えました。

みんなの染み抜き

くらしナビ面 29日(月)

大切な衣服に、うっかり付けてしまった汚れ。「もう取れない」とあきらめてはいませんか。シミ抜きのプロに、頑固なシミを取ったり、薄くしたりする技を教えてください。水性と油性の汚れを同時に落とす「魔法の水」の作り方も伝授。お気に入りのあの服に、また袖を通せるかもしれません。全3回の掲載です。



女の気持ち「心の叫び」反響特集

くらしナビ面 8月1日 (木)



「もう疲れた。私を助けてくれる人はいるの？」——。アスペルガー症候群の息子をもつ40代の母親が、「女の気持ち」に寄せた「心の叫び」(東京本社発行、7月12日付)に、たくさんの反響の手紙やメールをいただきました。さまざまな立場の読者から届いた、共感と温かい励ましのお便りの一部を紹介します。

できる大人の言い方とは… くらしナビ面 8月2日 (金)

「できる大人のモノの言い方大全」(青春出版社)という本が話題です。昨年10月の初版以降、売れ続け、現在もベストセラーランキングの上位に名を連ねています。ほめる、もてなす、断る、謝る、反論する——。いろいろな場面で一生使える「秘密のフレーズ」を身につけ、スムーズな人間関係を築きませんか。



インサイド「強化の現場～ソチ五輪への道のり～」

30日から5回



来年2月7日のソチ冬季五輪開幕まで半年余に迫りました。プレシーズンの反省を踏まえ、各競技はどこに強化のポイントを置いて勝負の夏場を送っているのでしょうか。巨大ブランコ、綱渡りなどアイデア満載の練習メニューをこなすスキージャンプ陣、「氷上のチェス」と称されるカーリングで徹底される基礎体力強化……。五輪に向けたそれぞれの強化現場をレポートします。

生きる物語～命つないで

朝刊新総合面 30日 (火) から

京都大薬学部6年の西谷直也さん(25) =写真=は中学生の時にカナダで心臓移植を受けた。来年3月の卒業に向けて、今はうつ病の薬の研究に励む毎日だ。移植を受けた経験から医療関係の仕事に目覚め、薬学研究者を目指す。「多くの人の善意がなければ、僕は今ここにいない。精一杯生きて恩返しをしたい」との思いを強く抱く西谷さん。脳死からの臓器移植を取り巻く日本の現状も踏まえ、移植を受けた患者の日々を紹介する。

